

大阪 小康状態も需要にバラつき残る展開

(大阪)大阪地区の鉄スクラップ市況は小康状態。電炉需要に依然としてバラつきが生じており、市況の軟化見通しは払拭しにくい環境が続いている。

東京製鉄の関西サテライトヤードは今年3日の開設当初から受け皿としての機能を発揮しているほか、購入価格についても据え置きを続けている。これが値下げの抑止力となる形で、電炉筋の大半は様子見姿勢を崩しておらず、H2実勢は5万1000～5万2000円、一部上値5万2500円どころで変化に乏しい展開が続いている。

また、東京製鉄は先月下旬のトラブルを受けて以降、拠点間で安値圏に沈んでいた田原工場と名古屋サテライトの値戻しに踏み切っている。

姫路地区のヤマトスチールも炉休終了を前に、18日から荷受けを再開し、国内市場や需給にも改善の兆しが見られることにより、需給双方ともに目先の市況については小動きを予測する声が多い。

しかし、中山鋼業は入荷抑制に向けて、8日に続き、18日からもH1～L1の500円の追加値下げを実施している。これに追随する動きは見られないが、他の電炉筋もここまでの安定した入荷を支えに、在庫余力を抱えている。新規輸出商談の停滞や電炉需要のバラつきが目立つH2については、市中業者筋からも「高値を中心に調整圧力は残っている」との指摘もあり、警戒を完全には緩めにくい展開となっている。

東京製鉄岡山工場 20日と27日は受け入れ時間を制限

東京製鉄岡山工場は構内工事を理由に、6月20日(木)12時～13時と27日(木)7時～17時まで全品種、全車両

を対象に、鉄スクラップの受け入れを一時停止する。

近畿工業「2024NEW環境展」の同社ブースに今年も多数が来場

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市中央区、和田知樹社長)は5月22～24日に開催された「2024NEW環境展」での同社ブースの来場者数が当初の予想を大きく上回り、今年も大盛況だったようだ。ここ数年、3日開催に短縮されているにもかかわらず、同社ブースへの来場者数は金属リサイクル企業を中心に従来の4日間開催を上回るペースが続いている。

今回、金属リサイクル業界向けにAI搭載型非鉄選別ロボット「V-PICKER」と二軸剪断式破碎機「SHRED KING」、水平型振動ふるい機(NLH型)、一軸破碎機「SHRED ONE」、実機の4分の1モデル模型となるが、小型工業雑品用シュレッダー「V-BUSTER」

の5機種を展示した。

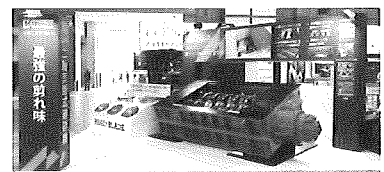
業界初の金属リサイクルに特化したAI搭載型非鉄選別ロボット「V-PICKER」はAIを搭載したロボットがカメラで読み取った画像を解析した上で、銅、真鍮、アルミなどを自動的に選別できるシステムとなっている。

同機で実演を行ったこともあり、来場者は足を止め、選別の様子を熱心に見学していたようだ。

また、金属リサイクル企業からは二軸剪断式破碎機「SHRED KING」も高い評価を受けている。最近では同機を一次処理として金属リサイクル企業で用いられるケースが増えている。同社によると、来場者からはアルミのビス付きサッシなどの処理機として、磁選機を組み合わせたプラントをはじめ、薄物ヘビー類の破碎処理によって、付加価値向上が見込める破碎機の導入に興味を持つ声が多かったとされる。金属リサイクル業界内では人手不足への対応や品質の付加価値を目指すべく、機械化への意欲は一段と高まっており、同社ではこうしたニーズを後押しに、破碎機や各種選別機を組み合わせたプラントの受注拡大につなげていく考えだ。



AI搭載型非鉄選別ロボット V-PICKER の実演を熱心に見学する来場者



一次処理として金属リサイクル企業で導入が増えている SHRED KING

20TH
Anniversary

サヤミツ産業株式会社

兵庫県姫路市白浜町宇佐崎南2丁目29 TEL (079) 247-2510
FAX (079) 247-2511

ステンレス・製鋼原料・鋳造原料・アルミ・その他各種スクラップ

SAYAMITSU Inc.